



ぶら下がる形の下りであった。

この下には滝はかからない。まもなく左岸から支沢が合流する。保太橋沢本流との出会はずぐそこであった。

【タイム】 右俣下降開始(12:50)→下降終了(14:25)

保太橋沢支流無名沢 1992年9月12日

保太橋沢中俣および右俣という今日の目標とした沢が終わったところで、1308mピーク西方のコルに突き上げるこの支沢を撤退路として利用することとする。

平凡な沢筋が続く。遡行が目的なら不満だが、撤退路としては適当である。遡るにつれて沢筋がだんだん狭くなってゆく。

20分遡ったところで、滝が出てきた。せっかくの滝だからと、直登にかかる。10m程の滝で、割合楽に登れる。このあと小滝を2つ越えると、もう源頭である。湿原の左端を登り、5分ほどのヤブこぎで、尾根上の登山道(旧道)に出た。

【タイム】 遡行開始(14:40)→登山道(15:20)→小豆温泉(16:35)

保太橋沢支流ズタリ沢 1992年10月3日

6時30分、保太橋沢出合から遡行開始。3週間前保太橋沢を遡行したときに比べ、水量はかなり増えていた。30分でズタリ沢出合到着。ズタリ沢は、保太橋沢との出合に10m3段滝をかける。一番落差が大きい下段は右岸を直登し、あとは左岸を登る。登ると次に15m階段状の滝。そしてそのあとに5mと続く。15m階段状の滝は特に困難な所もなく通過。5mは左岸を直登する。このあとは小滝が連続するようになり、ぐんぐん高度を稼ぐ。いずれの滝も楽に越えることができ